

平成28年度第1回防災訓練実施報告

1. 期日 : 平成28年8月22日(月)

① 避難訓練 10:30~10:45

② 消火体験 11:10~11:30

2. 参加者

リデルホーム : 入居者避難者 26名 (内SS利用者2名) 残留 7名
職員避難者 14名 残留 0名
合計 47名
タイム (10分45秒)

ライトホーム : 入居者避難者 49名 残留 0名 入院者 0名
職員避難者 12名 残留 0名
合計 61名
タイム (9分30秒)

ユーカリ苑 : 利用者避難者 20名 残留 10名
職員避難者 14名
合計 44名
タイム (2分25秒)

3. 内容

①昼間出火想定(10:30)とする。(出火場所:居宅介護支援事業所)

②緊急時における初期消火の的確な判断と避難・誘導に重点を置く。

③消火器を扱った事がない職員は消火体験を行い、消火器の使い方を理解する。

消火器訓練参加者 リデルホーム 2名
ライトホーム 0名
ノットホーム 3名
ユーカリ苑 3名 計 8名

4. 反省内容

(別紙記載)

*防災訓練反省

1. 各部署より報告

① リデルホーム

- ・ 出火場所が居宅介護支援事業所で遠かったため、初期消火に向かわず、館内放送で避難指示があるまで待機してしまった。初期消火には必ず行くべきだった。
- ・ 避難誘導時、職員はヘルメットをかぶっていなかった。
- ・ 発報があったら、職員は全員受信機を確認に行くべき。発報場所が分かったら、避難指示の放送を待たずに、避難誘導を始めてもよかった。
- ・ 声が出ていなかった。最初声を出さずに黙って避難誘導を始めてしまった。声を出してお互いの動きを把握することが不十分だった。
- ・ サイレンが鳴っている間も、入居者の皆さんに声をかけて落ち着いていただく配慮ができていなかった。
- ・ リーダーも一緒に避難誘導にあたってしまい、全体の状況を把握して、各職員に的確に指示を出すことができなかった。リーダーは基本的に動かず、全体の状況を把握して、職員に指示を出すべきだった。
- ・ 避難誘導後に避難完了の目印として入居者の部屋の扉につけた飾り(花柄のコースター)を取る事を忘れてしまい、同じ部屋を確認してしまった。
- ・ 流れを事前に聞いていたが、入居者を避難させることに精一杯になってしまい、避難時の声かけ、窓閉めを忘れてしまった。
- ・ あるユニットの避難が完了した、と他の職員から聞いたが、実際は一人だけ避難されていなかった。連携、確認ができていなかった。
- ・ 次にどのように動けばいいか迷ってしまい、止まってしまうことがあった。自分からリーダーや職員に指示を上げればよかった。
- ・ お互いに指示を出し合って、迅速に動くべきだった。
- ・ コースターを外しているのに、最後にまた確認を行っていた。他の職員に声をかけて、避難が完了しているか尋ねればよかったのではないか。
- ・ 発報確認後に防火扉を閉めたが、移動の際に扉を開けて行き来してしまった。防火扉は安全のために閉めているので、扉の奥に向かう時は外から回って行くべきだった。
- ・ 応援に来てくれた職員には、向かってもらう場所を具体的に伝える(あっちです、では正確な場所が分からない。)
- ・ 日頃から他の部署の構造を把握しておき、他部署の火災であっても出火場所に応じて、どこの入居者、ユニットから避難させなければならないかを考えておかなければならない。
- ・ 今回の反省を踏まえて、再度自主訓練を行う必要がある。

② ライトホーム

- ・初期消火には各事業所から一人でも多く、消火器を持って出火場所に駆けつけるよう努めなければならぬと思った。
- ・リーダーは指示、状況把握を念頭に置きながら、人手の必要な個所の避難誘導の手伝いに向かった方が、スムーズに動け、迅速な避難ができたのではないかと。
- ・避難指示の放送があるまでの待機中、入居者に安心していただけるような声かけができていなかった。
- ・他部署の応援に行ったが、誰に声をかけてよいか分からず、応援に入るまでに時間がかかってしまった。
- ・他部署の避難完了の目印の仕方が分からず、避難完了している部屋をまた確認してしまいそうになった。
- ・居室の反対側にある洗濯室や給湯室の確認を忘れてしまい、二度手間になってしまった。
- ・実際に災害が起こり避難をする際、車いす利用の方で平行移動が必要な方の介助方法を考えておかなければならぬと思った。
- ・ご自身で歩いて避難できる方が非常口から出た後、全体の集合場所までの案内をどう行うかが課題と思った。
- ・リーダー、サブリーダーでフロアの確認を行うよう考えていたが、いざ訓練が始まったらそれが頭から抜けてしまい、違う動きをしてしまった。
- ・避難指示の放送から訓練終了までの間、何か状況の説明をする放送があると安心できると思った。
- ・事前に役割分担を決めていたため、万が一の場合に臨機応変に対応できるのか不安に思った。今後自主訓練が必要ではないか。
- ・自主訓練で他の部署の人たちに立ち会っていただき、意見を出してもらうのも良いのではないかと。

③ ユーカリ苑

- ・初期消火で出火場所を見つけた職員から、どこからの出火なのか声掛けがなかった。
- ・煙の充満した部屋の中に入って消火活動を行ってしまった。
- ・誘導箇所が分かれる時(一般型と認知症型)、その分避難誘導を行う人が必要だと思った。
- ・「火事だー！」との声が出ていなかった。
- ・職員がどう動くべきか分かりにくい。リーダーの指示ができていなかった。
- ・利用者の立ち上がりが見られ、職員の指示に従っていただく旨をしっかりお伝えする必要があった。
- ・館内放送の「発報」という言葉では、意味が分かりにくいいため、簡単に分かりやすい言葉で伝えた方がよいと思った。
- ・応援で場所を移動するより、初期消火を優先するべきだった。

- ・応援が必要な時は、他の職員に声をかけて指示するべきだった。

④事務所より

- ・「発報」という言葉が分かりにくいとのご指摘があった。警報機が鳴っています、など分かりやすい表現に改めたい。
- ・消防署への通報時、全部署の当日の利用者数、職員数を伝えなければならなかった。事前に把握しておくべきだった。
- ・ノートホームに応援を依頼する際は、出火場所に応じて、どこから建物に入ってもらえるか伝えた方がいいと思った。

⑤ご入居者様より

- ・館内放送は、2階、3階ともハッキリと聞こえた。
- ・ご自分で歩ける方でも、避難時に少し疲労感を訴えられた方がおられた。
- ・職員の声掛けや言葉遣いはよかった。
- ・「発報」という言葉が分からない。「火災報知器が鳴っています。」など簡単な言葉で言ってもらった方が分かりやすいと思う。

⑥春日苑長(自衛消防隊長)より

- ・発報から避難開始の放送があるまで時間がかかったように思う。
- ・発報後、職員が受信機へ集まってくるまで時間がかかった。
- ・職員は全員、消火栓の位置を把握しておいてもらいたい。

⑤ 消防署より

- ・発報があったら、職員の方は全員必ず受信機を見に行き、出火場所を確認してください。
- ・初期消火は一人でも多くの人員で行った方が、消火できる可能性が高くなる。他の部署からも応援に向かっていたいただきたい。
- ・初期消火の際、消火器だけで終わってしまっていた。消火栓も使用していただきたい。
- ・煙の出ている部屋の中には入らない。
- ・初期消火で火元に向かう前に、火元よりも奥にある部分(今回は共用トイレ)を先に確認されたのはよかった。
- ・リビング等、共用部分の避難の確認方法を決めておいた方がよい。
- ・寝たきりの方を避難させる方法(毛布や布団に乗せて移動など)も学んで、避難方法の引き出しを多く持っておいた方がいい。
- ・リーダーは避難誘導に加わるよりも、全体の状況が分かりやすいところにおいて、職員や応援者に指示を出すようにした方がよいと思う。
- ・消防隊が駆けつけた際に建物の構造を伝えるための図面を準備しておいていただきたい。広用紙など大きいものがあると分かりやすい。また、夜間は懐中電

灯など照明も一緒に渡してもらいたい。

- 他部署の建物の構造をお互いで共有し、連携をしていただきたい。(応援者も安全な場所から建物に入り、安全な場所へ避難誘導ができる。)
- 各部署の避難完了の確認方法など、最低限のマニュアルをそれぞれの部署が情共有しておくべきだと思う。

※リデル黒髪 …各居室のドアについているコースターを外す(マジックテープ)。

※ライトホーム…各居室、洗濯室、給湯室の前に貼ってある花の絵を外す(ラミネート)。

※ノットホーム…各居室のネームプレートを横にずらす。

報告者

リデルホーム黒髪

岩田 和紘

